



今年度最後の校長講話『自分を伝える 自分の取り扱い説明書』



3月10日(火)に今年度最後の校長講話の時間を頂きました。

「私は誰でしょう 苦手や困ったことにであった時」と題して事前にインタビューした3名の子どもの回答をクイズ形式で紹介しました。

	苦手や困ったことにであった時
1人目	てつだってほしい
2人目	じぶんでいうのは、はずかしい
3人目	こまっていたら、そのようすを見ていたともだちにおしえてもらった。うれしかった。

にがてやこまったときにどうする

①がまん ②ばくはつ ③きもちをにげる つたえる

私は誰でしょうと言いながら、誰かをあてることが目的ではありません。だれもが苦手や困ったことにであうけど、その時にどんな行動をとるのかを自分はどんなタイプな

のかを知っておくことが大事だと思っています。みんなに挙手してもらおうと、①の子もいるし、②の子もいました。自分のことがよく分かっている証拠です。③のように気持ちが伝えられ



こまったときやふあんなときでも
じぶんをできる子にすることは
先生やともだちにじぶんから
「わたし〇〇がにがてなんや」
「ふあんになるとぼく〇〇に
なってしまう」



方にも協力頂いて、先生の苦手なことや不安なことをみんなに話してもらいました。「みんなに絵を描いてと頼まれるけど、実は苦手な前日に一生懸命練習

ばいいのですが、そうばかりできないのも人の心の内だと思います。

そこで、『じぶんをできる子にする』ためには、「自分の苦手やよく不安になる時を友だちに知らせておくことだよ」と話して、近くの子に自分の苦手を伝え合う時間をとりました。正直、本当の気持ちを伝えるのは勇気のいることです。話し合いはできるかなと思っていましたが、どの学年も自分の苦手を伝えて、「こんなことを手伝ってほしい」や「こんな気持ちでいるから見守っていてほしい」と伝え合っていました。

この話し合いの前には、先生



していること」「片付けが苦手で、一緒にいる〇〇先生や子どもたちがよく整理整頓を手伝ってくれている」と自分を紹介してくれたのも子どもたちが自分も伝えてみようと思ったきっかけになったかもしれません。

最初にインタビューで紹介した3人目の子は高学年なのですが、「困っていたら、助けてと言う前に、困っているんやったら教えよか」と周りの子が助けてくれた話をしてくれました。

私は、子どもたち一人ひとりには我々大人以上にやさしく温かな心があり、助け合うのは当然と思っていると感じています。ただ、トラブルになったり、行き違いが起こったりするのは、相手のことを知らないだけなのではないでしょうか。

4月になって新学期、それぞれが自己紹介する際に、好きや得意なものだけでなく、苦手や不安なことを伝え合えたなら、よりよい自分・よりよいクラス・よりよい学校になると考えています。

